

市立豊中病院運営計画(平成30年度～平成34年度)の概要

1. 計画策定趣旨

計画趣旨 昨今の医療環境の変化や現状の課題を踏まえ、引き続き地域中核病院の役割を果たすため、新たな5年間の取組み・目標を定めるもの

基本目標 ～良質な医療の提供と安定した経営を図るため、
総合力を活かした急性期医療の向上とともに、
地域力に根ざした医療連携を一層強化します～

2. 当院をめぐる医療等の情勢

■医療政策等の動向

[政策] 社会保障費の抑制。地域医療構想を軸に、医療機能の分化と連携を促進

[本市] 地域医療の推進(地域医療提供体制・在宅医療の充実)、地域包括ケアシステムの推進

■医療提供体制の方向性(大阪府地域医療構想(豊能二次医療圏))

[必要病床] 高度急性期はやや減少、急性期は同程度必要、回復期・慢性期は不足

3. 当院の運営状況

診療実績 [入院] 520人/日 新規15,056人 在院日数11.6日 診療単価58,024円
(28年度) [外来] 1,199人/日 初診32,603人 通院日数 8.9日 診療単価16,918円

地域連携 [連携] 受診の迅速な受入れ、「あんしんルート」事業、退院支援を強化

保健医療計画への対応 [救急] 年間約2万人の救急診療を実施し、平均5,500件の救急搬送を受入れ。救急科医不足に全診療科の応援体制で対応し、患者の安定的な受入れを行う
[がん] 総合的ながん診療・チーム医療体制及び相談支援体制を充実
[周産期] 24時間体制にてハイリスク分娩の積極的な受入れを行う

地域中核病院の役割 [機能] 集中治療室、高度設備など多くの医療資源を有し急性期医療への期待に応える
[手術] 年間5,500件以上の手術を実施し、高度・専門医療を提供
[連携] リハビリの充実・早期実施により退院・転院を支援

運営体制 [人員] 医師数は概ね確保できているが、救急科・麻酔科医が不足。常勤看護師は定数確保が課題

財務状況 [収支] 24年度から黒字基調が続くも28年度は新規患者の減少等により4.3億円の赤字

4. 今後の方向性と取組計画

- 医療需要の増加と変化に対応するため、引き続き急性期・高度専門医療を提供する役割を担うとともに、地域の医療機関との連携を強化する
- 大きく変化する医療環境に対応できる経営基盤を確立し、良質で満足度の高い医療サービスを安定的に提供する

【取組計画】

(1) 医療機能と質の向上

- ①診療機能の向上
- ②がん診療の充実
- ③スタッフの充実
- ④医療の安全・安心の向上

(2) 地域医療連携の推進

- ①病病・病診連携の強化
- ②医療・介護の連携の強化
- ③医療情報の連携

(3) 患者サービスの向上、職員の働き方の改善

- ①患者サービスの向上
- ②地域への積極的な情報の発信
- ③職員のモチベーションの向上
- ④働き方にかかる意識改革

(4) 業務の効率化と経営基盤の確立

- ①収益の確保
- ②適切な費用管理
- ③情報化の推進
- ④職員の経営意識の醸成

【基本指標】

指標	34年度目標	指標	34年度目標	指標	34年度目標
入院診療単価	63,000円	病床利用率	90%	逆紹介率	80%
外来診療単価	16,000円	救急車搬送受入数	6,300人	[入院]患者満足度調査結果	前年度の結果を上回る
新規入院患者数	16,300人	救急からの入院患者数	5,000人	[外来]患者満足度調査結果	前年度の結果を上回る
平均在院日数	11日以内	紹介率	80%	経常収支比率	100%以上

【進捗管理及び評価】

本運営計画の推進にあたっては、別途「実施計画」において各取組内容を定め、院内の各種委員会等で進捗管理を行い、着実に推進する。また、年度ごとの達成状況を病院運営審議会にも報告し、その意見も踏まえながら、次年度の取組みを進める